テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。
このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。
現在、テレビ静岡では県内在住の８名の方に審議委員をお願いしており、毎月１回（２月、８月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡　２０１９年７月度　番組審議会概要

２０１９年７月１１日（木）
１４時００分～
テレビ静岡本社　４階　会議室

―　出席委員　―

高木 正和(委員長)　戸﨑 文葉(副委員長)　石田 美枝子
木村 精治　上柳 正仁　飯野 勝己　松本 恵司　栗山 勝訓

―　議　題　―

番 組 名　第２８回FNSドキュメンタリー大賞　参加作品
「豊かさの行方　～障害者支援施設はイマ～」

放送日時　２０１９年5月２５日(土)　１４時００分～１４時５５分

制作著作　テレビ静岡

―　番組内容　―

企業への就職が困難な障害のある人に仕事の場を提供する「就労継続支援 B 型事業所」。このＢ型事業所への国の給付金支給のルールが、２０１８年に「利用者の人数」から、「利用者に支払う工賃の平均額」に応じて変動する仕組みに変わった。番組は沼津市にある B 型事業所の理事長である母、施設長の長男、生まれつき障害のある次男に密着。施設がめざすのは利用者の“豊かな”日々だが、母と長男のアプローチは大きく異なる。利用者の自立と所得向上のため企業への営業活動に奔走する長男、次男のような重い障害のある人が生きがいを感じられる「居場所」を模索する母、それぞれの葛藤を通して見えてくるＢ型事業の課題､「豊かさとは何か」を問いかける。

― 審議概要 ―

◎障害者の抱えている問題、障害者雇用の問題がよく分かった。社会全体の課題と捉えることが必要と感じた。
◎福祉というテレビにとって派手さのないテーマに向き合い、制度の仕組みや問題点をよく捉えていた。
◎国の施策に対して障害者の置かれた現状や、施設経営の課題などが描かれ、意義のある番組だった。
◎施設の日々の業務や利用者の表情など、コメントがなくても十分読み取れる感情が多く盛り込まれ、映像に取材対象者と撮影スタッフの信頼関係が表れていた。
◎テンポがよく、緩急もつけられた構成で、集中して見られる作りだった。
◎「理想と制度と現実のはざまで親子が生き続ける」など最後が印象的だった。
◎母と長男のそれぞれの葛藤が描かれ、その葛藤や制度の課題は続いているのだから、最後に長男が母の意向に沿うよう心が変化したところでまとめたのは消化不良な印象を受けた。葛藤が続いているという結論でよかったのではないか。
◎ナレーションは、「（制度などの）説明が不足していた」と「わかりやすいがコメント量が多く、もう少し奥行きのある沈黙（間）が欲しかった」と意見が分かれた。

第２部　「番組内で商品・サービスを取り扱う場合の考査上の留意事項」についての意見交換

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りの参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は２０１９年９月１２日（木）の予定です。